

# 昭和五十五年度 陵墓関係調査概要

陵墓調査室

の調査（古市、九月実施）

担当 土生田純之・中野順治・浅野良文

三、百舌鳥部事務所（大阪府堺市大仙町）車庫設置工事区域の調査（古市、九月実施）

担当 土生田純之・中野順治・浅野良文

四、觀音寺陵（京都市東山区今熊野泉山町）陵前門袖柵設置工事箇所の調査（月輪、十月実施）

担当 土生田純之・鎌田恒雄・藤林幸祐

五、成菩提院陵（京都市伏見区竹田淨菩提院町）駐車場整備工事区域の調査（桃山、十月実施）

担当 石田茂輔・福尾正彦・森本安雄・南智次郎・鎌田喜久雄・長浜敏男

〔立会調査〕

- 一、百舌鳥耳原北陵（大阪府堺市北三国ヶ丘町二丁）整備工事区域の調査（古市陵墓監区、九月実施）  
担当 土生田純之・浅野良文・山本良文
- 二、百舌鳥耳原中陵（大阪府堺市大仙町）第三堆積汚泥浚渫工事区域  
査（桃山、六月実施）

- 六、金原陵（京都府長岡京市金ヶ原金原寺）参道入口改修工事箇所の調査（桃山、六月実施）

担当 畑隆夫

七、玉手丘上陵（奈良県御所市大字玉手）鳥居建替工事箇所の調査（敵傍、六月実施）

担当 前川勲・北田和夫

八、菅原伏見西陵（奈良市宝来町）鳥居建替工事箇所の調査（敵傍、六七月実施）

担当 表野保治・梅森康史・畠山伊透

九、桜本陵（京都市左京区鹿ヶ谷法然院町）鳥居建替工事箇所の調査（月輪、七月実施）

担当 辻井忠則・茶谷尚三

一〇、鳥戸野陵（京都市東山区今熊野泉山町）外構柵設置工事箇所の調査（月輪、八月実施）

担当 錬田恒雄・藤林幸祐

一一、敵傍陵墓監区事務所公務員宿舎（奈良県橿原市大久保町）改修工事箇所の調査（敵傍、九月実施）

担当 土生田純之・平木由喜久・森本正哲・久保俊郎

一二、百舌鳥耳原中陵第三堀排水用電柱設置工事箇所の調査（古市、九月実施）

担当 中野順治

一三、百舌鳥耳原中陵陵前渡土手危険防止柵・同駐車場車止柵設置工事箇所の調査（古市、九月実施）

担当 富賀武・大平齊

担当 中野順治

一四、磐園陵墓参考地（奈良県大和高田市大字築山）南側外構金網柵設置工事箇所の調査（敵傍、十一～十一月実施）

担当 北田健郎

一五、香隆寺陵（京都市北区平野八丁柳町）電灯線埋設工事箇所の調査（月輪、十月実施）

担当 藤井良章・棕本武

一六、恵我藻伏岡陵（大阪府羽曳野市誉田六丁目）鳥居建替工事箇所の調査（古市、十一～十二月実施）

担当 富賀武

一七、大吉備津彦命墓（岡山県岡山市尾上・吉備津）整備工事箇所の調査（桃山、十二月実施）

担当 佐藤利秀・高田慶昭

一八、河内坂門原陵（大阪府羽曳野市西浦）北側中央部外構金網柵設置工事箇所の調査（古市、十二月実施）

担当 富賀武・大平齊

一九、百舌鳥耳原北陵整備工事箇所の調査（古市、一～三月実施）

担当 中野順治・山本良文・柴原博一

二〇、磯長山田陵（大阪府南河内郡太子町大字山田）陵前境界線石垣設置工事箇所の調査（古市、一～二月実施）

担当 富賀武・大平齊

三、百舌鳥耳原中陵第三堀堆積汚泥浚渫工事箇所の調査（古市、一月実施）

担当 中野順治

三、紙屋上陵（京都市北区衣笠北高橋町）南側境界ブロック堀設置箇所の調査（月輪、一月実施）

担当 藤井良章・椋本武

三、観音寺陵陵前門袖柵設置工事箇所の調査（月輪、二月実施）

担当 北本三郎

西、田原東陵（奈良市日笠町）鳥居建替工事箇所の調査（畠傍、二月実施）

担当 池谷浩行

三、白鳥陵（大阪府羽曳野市輕里三丁目）墳丘裾崩壊部応急復旧工事箇所の調査（古市、三月実施）

担当 富賀武・大平斎

〔緊急現状調査〕

三、白鳥陵墳丘崩壊箇所の調査（古市、十一月実施）

担当 福尾正彦・武津滝彦・中野順治・浅野良文

〔石塔調査〕

三、輪王寺宮墓地（東京都台東区上野公園寛永寺兩大師内）守澄親王墓以下十三基の石塔現状調査（多摩、三月実施）

担当 笠野毅・土生田純之・福尾正彦・佐藤利秀

以上の調査のうち、事前調査と緊急現状調査は当調査室員と所管陵墓監区の調査担当職員とが調査に当り、立会調査は当調査室の指示のもとに、主として所管陵墓監区の調査担当職員が調査を行ない、石塔調査は当調査室員が調査を行なった。これらの調査結果に基づいて、工事設計と施工は、当庁京都事務所工務課が、遺構遺物の保存を配慮し実施した。

調査による出土遺物については、陶磁器は、鑑定を東京国立博物館の林屋晴三工芸課長に依頼した。また木製品は、国立科学博物館の山内文技官に用材の教示を得、東京国立文化財研究所の樋口清治修復技術第二研究室長に保存処理方法の教示を、鈴木友也修復技術部長・中里寿克漆工研究室長に用途・年代の教示を得た。

一の百舌鳥耳原北陵の調査では、陵東側境界線外構柵設置区域の、陪冢鈴山に面する二箇所で、東下りの緩勾配をもつ地山の落ち込みを検出し、その法肩二箇所に表示杭を設置し、今後の法面破壊防止を図った。

この様な地山の落ち込みは、南側境界線外構柵設置区域や陵前駐車場整備区域では検出されなかつたので、これが当陵一重濠説に関するものか、以前に鈴山の縁から当陵境界線にかけて存在した池に関するものは、今後の陵域外周辺部の調査結果を待つほかない。本調査の出土品は土器一〇二片・埴輪四四片・陶磁二四片・瓦九片で、埴輪の表面調整痕の大半は、横刷毛目である。調査に当り、考古学上の指導を末永雅雄書陵部委員に、地層鑑定を梅田甲子郎奈良教育大学教授に依頼した。

二の百舌鳥耳原中陵の調査は、東側第三堀浚渫のため、汚泥と包含遺物の状態を調査したもので、掘り込まれた大阪層群の地山上に、始んど近年の汚泥だけが堆積していることが判明した。埴輪五片出土。

三の百舌鳥部事務所車庫敷の調査では、「昭和四十七年度陵墓関係調査概要」で報告の当事務所敷の状況と同様であった。埴輪九片出土。

四の觀音寺陵の調査は、当所が葬地「鳥戸野遺跡」に包含されるので実施したが、発掘区域は全部後世の盛土で、遺構は検出されなかつた。しかし発掘土量と比較して大量の古瓦小片が出土した。古瓦片は全部、胎土に多量の砂礫粒を含むもので、その大半は、表面がただれ、赤く変色し脆くなつてゐる。平瓦一九九片・宇瓦五片・丸瓦一九片の三種で、布目・繩目の認められるものが少數ある。当陵はもと法華堂で、応仁二年（一四六八）兵火にかかっているので、恐らくこれ等は、当法華堂のものではなかろうか。

五の成菩提院陵駐車場の調査は、水田への土盛り工事のため、当初予定しなかつたが、京都市文化財保護課から、当所隣接地で検出された遺構との関連の有無確認を要請され、杉山信三京都市埋蔵文化財研究所長の教示を得て実施したものである。幅約八メートルの堀か池の様な遺構が検出され、土師器一八九・須恵器一一・瓦器一四・陶磁器一一〇・鎧瓦一・字瓦一・丸瓦一二・平瓦三五・この他の古瓦八等の破片、漆塗燈台残欠一、木片二〇等、古代から近代に至る遺物が出土した。当所は建長元年（一二四九）に焼けた当陵三重塔の基壇から至近距離にあるので、

平安末から鎌倉時代の出土遺物は、当三重塔に用いられた物の可能性が強い。

以上の事前調査の結果からは、營繕工事により破壊の恐れのある遺構は認められなかつた。

二の鳥戸野陵の調査は、「昭和五十四年度陵墓関係調査概要」に報告の事前調査区域についてのもので、新しい知見は得られなかつた。

三の調査は、磐園陵墓参考地後円部南側に面する境界線、延長一二〇メートルの金網柵の鉄製支柱打ち込み工事に対するもので、打ち込み障害による葺石等の遺構の存在は、認められなかつた。

四の惠我藻伏岡陵の調査では、鳥居柱穴から埴輪三片と布目平瓦三片が検出された。

七の大吉備津彦命墓の調査では、岡山県教育庁文化課の河本清係長・平井勝主事の協力を得て、外周土墨の切取部分から、弥生土器等の土器一七片を採集した。また墳丘後円部東側にある石仏の周囲柵設置部分には、土中に葺石様の礫があることを探知したので、この部分の柵柱には、置き基礎方式を採用した。

二の百舌鳥耳原北陵の調査では、一の調査結果に加える遺構は検出されず、一般拌所から埴輪二片、鳥居柱穴から埴輪五片・陶器一片・その他一片が出土しただけである。

二〇の磯長山田陵の調査では、前年度の事前調査の所見と同様であつた。

二五及び二六の白鳥陵の調査は、墳丘裾崩壊によつて露出した埴輪の崩落

防止のため、応急処置として、木柱トリカルネット張の土留柵を設置し

て、崩落土を復旧する際に実施したもので、埴輪露出部の記録と、散乱

した埴輪円筒一一七片・形象埴輪一片を採集した。復旧工事では出土物

は検出されなかつた。

この他の調査では、遺構・遺物は検出されず、工事は支障なく行われ

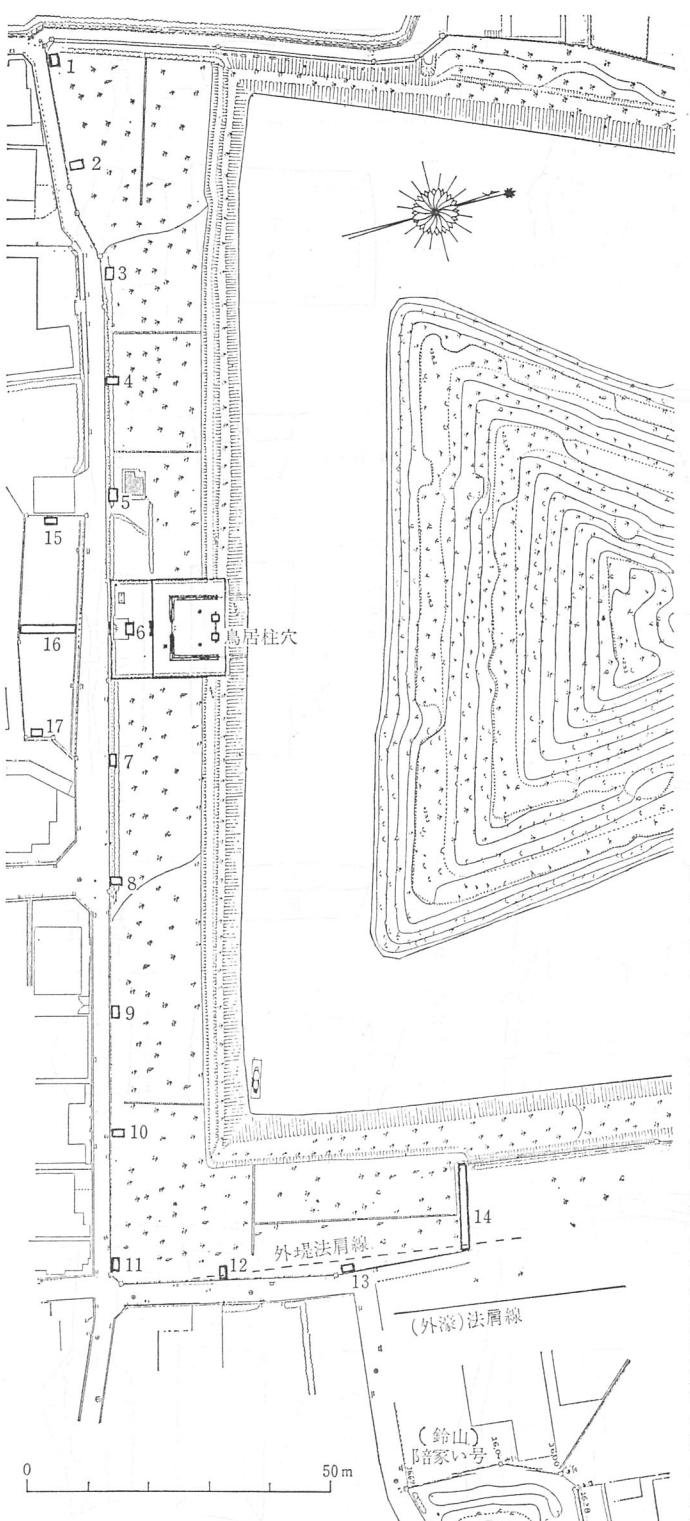
た。

石塔調査は、輪王寺宮墓地の石塔銘文全部を拓本に採つた。

以下、一及び二九・二一・三・四・五・六・二七・二八の調査の報告を載せる。

(石田茂輔)

#### 百舌鳥耳原北陵整備工事区域の調査



第1図 百舌鳥耳原北陵トレンチ位置 (1/1, 250)